

平成20年度「立ち上がる農山漁村」選定事例概要書

◎取組分野：【新産業創出】

- | | |
|-------------|--------------------------|
| 1. 都道府県、市町村 | 東京都 ^{みやけむら} 三宅村 |
| 2. 団体名 | 株式会社 伊豆緑産 |
| 3. 取組みの名称 | 三宅島復興サルトリイバラ事業 |
| 4. 取組概要等 | |

◇概要

三宅島の噴火による全島避難時より森林荒廃地の緑化や枯損木の伐採などの復旧工事に携わっていたが、平成17年頃、他の植物が枯れてしまうような濃い火山ガスが降りる環境でも、サルトリイバラだけは遅しく生育していることに気がついたことをきっかけに事業に取り組むこととなった。

サルトリイバラは切り枝として噴火以前から出荷していたが、荒廃地に植栽して緑化すると同時に島の産業として生かせると考え、平成18年度「森業・山業創出支援事業」に優良プランとして認められたことから事業としてスタートさせ、現在、以下の事業を行っている。

- ①サルトリイバラ苗の栽培
- ②サルトリイバラ苗を荒廃地に植栽（緑化）
- ③自生サルトリイバラの切り枝を生花市場へ出荷
- ④サルトリイバラ根茎の製品化のための研究
- ⑤サルトリイバラ認知度向上のためのグッズ製作・販売
- ⑥サルトリイバラの植栽や苗づくりなどのイベント実施
- ⑦インターネットショップによる関連商品の販売

現在はビジネスとしては発展途上であるが、「緑化」「観光」「健康」の3つの柱で今後の地域振興を兼ね合わせた収益性のある事業を計画している。

- ・「緑化」：荒廃地の緑化用植物として公共事業で利用できるよう、関係機関に協議中
- ・「観光」：三宅島観光協会・三宅村森林組合等のツアーのプログラムのひとつとして、エコロジー意識の高い客層に対してアピール
- ・「健康」：サルトリイバラ根茎に含まれる有効成分を研究中

サルトリイバラの花言葉は「元気になる」「不屈の精神」であり、まさに立ち上がる三宅島を象徴する植物である。

◇活動の規模

項目	H16	H17	H18	H19	H20
生産量				1,900	2,500
解説	単位：本 サルトリイバラ切枝出荷量（H20は予定）				
生産量			3,000	1,000	23,000
解説	単位：株 ポット苗生産本数				
売り上げ			50,000	780,000	1,000,000
解説	単位：円 サルトリイバラ切枝、イベント代、グッズ等売り上げ（H20は予定）				
雇用者数			150	200	200
解説	単位：人 サルトリイバラ事業担当スタッフ（延べ人数）				
イベント回数				3	3
解説	単位：回 森づくりフォーラム、明治大学、海人きつず、エコライド等のプログラムとして				

項目	H16	H17	H18	H19	H20
イベント				140	150
参加者	解説 単位：人 植栽、苗づくり、ガイド等				

◇活用している地域資源

- ・ 三宅村役場よりサルトリイバラ自生地及び植栽の許可地として、荒廃した村有地6.7haの使用許可を受けているほか、サルトリイバラの栽培で遊休農地を活用。
- ・ 島内の遊休地を利用したサルトリイバラ植林イベント。
- ・ 島内お土産企画の「ナチュラルダイ（自然染め）Tシャツ」にサルトリイバラ染めもラインナップ。
- ・ 三宅島農協の廃棄牛乳ビンを利用して苗を植えた「さるびん」を製作・販売。
- ・ サルトリイバラ枝葉、果実は切枝（花材）として、国産（三宅島産）として生花市場へ出荷し、中国産の流通が主流の中差別化を図っている。

◇地域活性化のポイント

- ①サルトリイバラの苗作り等によって島民の雇用につながる。
- ②遊休地の利用によって、地主への地代支払いによる経済循環。
- ③観光イベントにおいて三宅島のコンテンツの一つとしてサルトリイバラを活用。島民と観光客のふれあう機会が観光アピールと島民の楽しみにつながる。
- ④サルトリイバラグッズを社会福祉協議会と協力生産し、高齢者などの生きがいにつなげる。
- ⑤三宅島からサルトリイバラの生産と販売で利益を上げ、三宅村に貢献する。

◇事業の今後の展開方向

「緑化」

荒廃地の緑化用植物として公共事業に利用できるよう関係機関に提案中であるが、供給に対応できるよう苗を常時確保しているほか、将来植栽地の観光化や、入会権等によって一般島民がサルトリイバラを収穫できるよう、産業化を視野に取り組む。

「観光」

エコロジー意識を持った観光客が近年増えたこともあり、三宅島観光協会、三宅村森林組合の企画のツアーにサルトリイバラ植林等をコンテンツに含め、観光振興に寄与する。

「健康」

サルトリイバラ根茎に含まれる成分が、現代病に対して有効である可能性を秘めている。この成分を研究分析し、商品開発することが、今後ビジネスとして最大の見込みである。

三宅島においても生産可能なポピュラーな商品を開発すると同時に成分研究を同時進行させ、2年後には本格的に商品展開することを計画している。

